

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第2回女性参画推進専門委員会の概要について

【要旨】

平成27年3月16日（月）に岩手県東日本大震災津波復興委員会第2回女性参画推進専門委員会を開催しましたので、その概要を報告いたします。

1 開催概要

- (1) 日時 平成27年3月16日（月）14：00～16：00 エスポワールいわて
- (2) 出席者 委員13名
- (3) 審議事項等
 - ① 第1回女性参画推進専門委員会での主な意見への対応等
 - ② 「女性参画によるなりわいの再生ワーキンググループ」の設置等について
 - ③ 平成26年度復興実施計画（第2期）の施策体系・事業に基づく進捗状況
 - ④ 平成27年度岩手県一般会計当初予算のポイント
 - ⑤ 平成27年度における復興計画の進行管理
 - ⑥ 「東日本大震災津波を教訓とした防災・復興に関する岩手県からの提言」について
 - ⑦ 「人口問題に関する報告（案）」について

2 審議概要

審議中に**出された主な意見**は、次のとおり。

〔長野委員〕

- ・ 被災地では、看護師、保育士、介護士等の専門職の不足が問題となっている。歯科衛生士では、県の補助により潜在有資格者の研修を行っており、こういった取組を他の業種にも広げて人材を拾い出してほしい。
- ・ 就学前児童の医療費助成が現物支給となるのは大変ありがたいが、助成の内容が市町村ごとにバラバラであり、県内で医療格差がないよう県として検討してもらいたい。

〔盛合委員〕

- ・ なりわいワーキングの検討内容は一般論が多く、沿岸の実態とは異なっていると感じる。根拠となるデータを示して、地域別、産業別の整理が必要ではないか。

〔瀬川委員〕

- ・ 沿岸で働きたいという希望があっても住居の問題がある。生活基盤も含めて受入態勢を考える必要があるのではないか。

〔両川委員〕

- ・ 震災から4年が経過し、いろんな我慢を強いられている子どもたちの精神状態が良くない。早急に対策が必要。

裏面へ続く→

- ・ 「なりわい」の分野は広く、地域ごとに事情は異なるため調査が大事で、かつ、次に繋がる人を巻き込んだ血の通った活動にしていきたい。特に、子育てをしながら働きたい人同士の共助など、**女性らしい柔軟な働き方のモデルを示してもらいたい。**

[佐賀委員]

- ・ なりわいワーキングの課題に対する方策には明るさを感じる。被災地の人たちが仕事をして幸せに暮らしていくために、どういう方向に導いていくのかを検討するのがこのワーキングの役割だと理解した。地域の実態に応じて、自分たちがどのように改善していこうとするのかのきっかけをつくるものだと思う。時間はかかるが項目ごとに検討していけばいずれは沿岸の人たちが立ち上がる力になる。

[山屋委員]

- ・ なりわいワーキングでは、地域でつくっているもの、顔の見える関係でできることを掘り起こして仕事として収入を得るとか、子育てや介護をしながら長年働けるような仕組みを企業側に持ってもらいたいなど様々な議論があった。今回は、そういうことがわかるような資料を示して議論いただければと思う。

[平賀委員]

- ・ 最近、女性の活躍促進が盛んに言われ、起業した女性が取り上げられることが多いが、プレッシャーを感じる人もいる。**女性は家族の問題を抱えていることが多く、男性と基盤が違う、起業する際のハードルも高いということ**を理解した上で**きめ細かな支援が必要。**

[熊谷委員]

- ・ **事業の進捗率と、現地で見聞きする実態には乖離がある**と感じる。数字と私たちの評価が異なることが見受けられる。今後も実際に**現地に行ってよく見て復興を進めることが必要**と感じる。

[村松委員]

- ・ 数字と実感は異なる。ウォッチャー調査においても、書面だけではなく直接話を聞くという方法もあるのではないか。

[菅原委員長]

- ・ なりわいワーキングの報告は、それぞれの意見の背景がわからないと具体的に理解しがたい。ワーキングは継続するので、次回の報告では工夫したい。
- ・ たくさんの報告事項があったが、女性参画推進専門委員会では、特に、こういうところを議論したいというものがあれば次回の委員会に取り上げる方法もあるのではないか。人口問題報告書は、復興や女性施策に関連するところが多いので、詳しく聞かせてもらいたいところであった。